

城下町探訪 48

2010/3/4

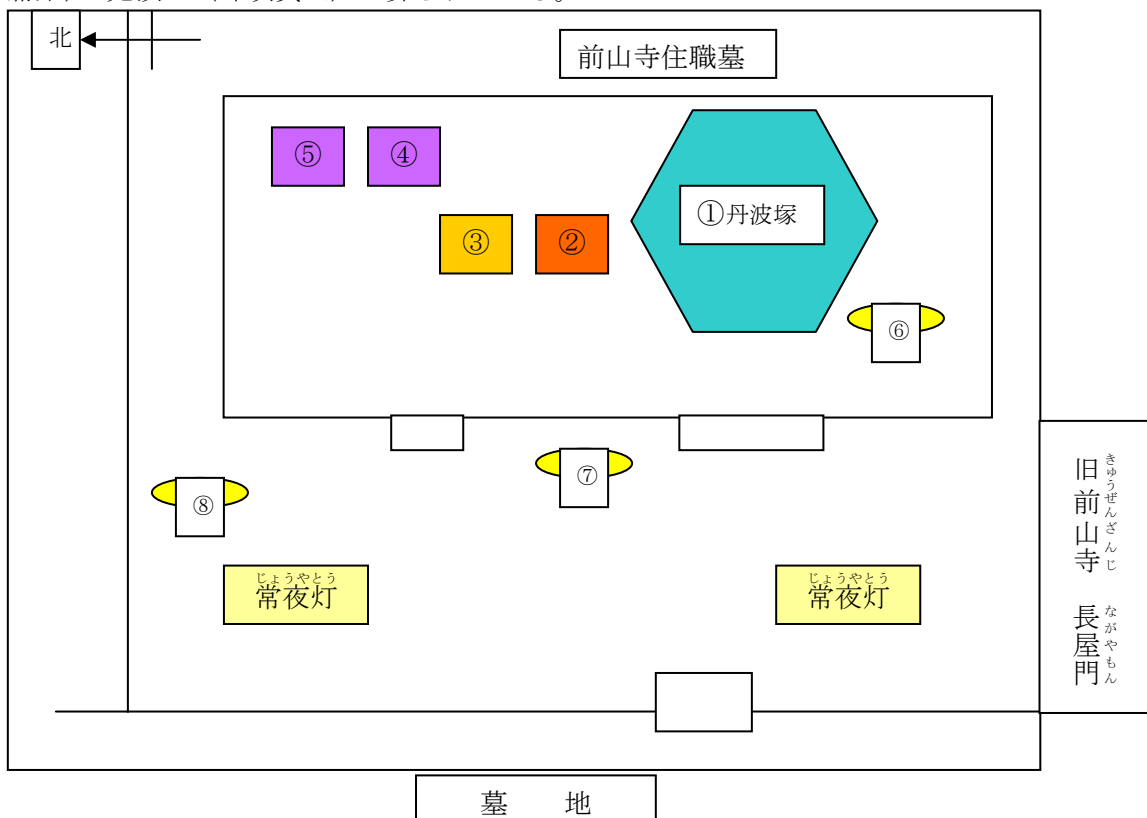
戸田家廟所・前山寺跡

松本市県2丁目1936番地に「御塚」と呼ばれる戸田家の廟所がある。昭和30年戸田家からこの廟所が松本市に寄附され、「戸田家廟園」と改められて松本市が『松本市特別史跡』として管理し現在にいたっています。毎年夏休み前には地区の子供達やPTAの役員、地元の方々により清掃活動が行われています。

1. 戸田家廟所案内略図

葬られている領主及び関係者

この廟所には藩祖康長・後戸田氏六代^{みつゆき} 光行・後戸田氏七代^{みつつら} 光年・光領^{みつむね}（後戸田氏八代^{みつ} 庸弟）・光領室（蜂須賀氏）が葬られている。



①丹波塚 藩祖康長公墓 元和3年（1617）戸田康長は松本城主として高崎から7万石で入封した。寛永9年（1632）松本城中で死去。埋橋に葬られた。これが丹波塚である。法号「祥雲院殿一運宗智大居士」

②後戸田氏六代^{みつゆき} 光行墓 江戸麻布白銀屋敷にて天保10年12月14日没 埋橋に葬られる。「瑞光院殿祥巖道麟大居士」

③後戸田氏七代^{みつつら} 光年墓 天保8年 松本にて、2月4日没 埋橋に葬られる。

「神龍院殿大光啓雲大居士」

④^{みつおね}光領墓（後戸田氏八代^{みつおね}光庸弟）江戸呉服橋藩邸で天保12年6月14日没 埋橋に葬られる。「泰應院殿大心為法大居士」

⑤^{みつおね}光領室 蜂須賀氏墓 慶応元年5月24日松本にて没。埋橋に葬られる。

安房蜂須賀治昭の娘「光」 泰秀院殿厚安為心大姉

⑥後戸田氏五代^{みつよし}光悌建立墓碑 天明元年五月建立

⑦後戸田氏八代^{みつおね}光庸建立碑 松平氏塋域碑

⑧饅頭塚 大正13年11月4日、筑摩字饅頭塚からこの地に移転。戸田康長の次男で寛永6年死去した忠光の墓。天保3年（1832）の水害で破損していた。

文字は小里頼永市長

松本の廟園に葬られなかった藩主もおり戸田家藩主の墓所は以下の通りである。

戸田康長（埋橋廟園）・戸田光慈（岐阜智勝院）・戸田光雄（智勝院）・戸田光徳（智勝院）

戸田光和（智勝院）・戸田光悌（智勝院）・戸田光行（埋橋廟園）・戸田光年（埋橋廟園）

戸田光庸（染井塋域）・戸田光則（染井塋域）

2 どのように石碑の石は運ばれてきたか

⑥の天明元年建立の五代^{みつよし}光悌建立の墓碑の石を運搬する時の様子が河辺文書に残されている。「天明元年 庄内組埋橋御塚御用石引取申 諸事覚」

一回目は、天明元年4月9日から4月14日にかけて行われ、山辺中入村から石をそりに乗せて敷木を並べ綱で引き、テコでこじるという方法で運搬された。6日間で動員された人足は延べ455人であった。そして、4月19日山辺南方村から大石を130人で引き出そうとしたが動かすことが出来なかったので一時中止となっている。

人足を出した村は南方村・中入村・北入村・桐原村・上金井村・橋倉村・薄町村・北小松村・荒井村・藤井村南小松村・荒町村・兎川寺村の13ヶ村であった。

2回目は7月19日から南方村から引き初め7月26日に御塚に着いている。この時、8日間で動員された人足は延べ1346人で1日平均168人余である。動員の村々は

上記13ヶ村に林村・湯の原村が加わっている。

こうして石引きの様子を見ると天守築造の時には、数多くの人々が長期にわたって石引きに動員されたのではないかと推測される。



3 前山寺は御塚の守護の寺であった

御塚の守護の寺院として上野金松寺（現梓川）の寺中前山寺を移して、嘉永4年9月起工して、安政2年冬竣工した寺である。維新の際、廃仏毀釈により戸田氏は率先して戸田氏に関係した寺を廃寺とした、明治3年廃棄されている。現在は写真の寺門を残すのみである。現在は無住である。



4 西側は藩士の墓地



西隣は藩士の墓地である。国学者でもあった林良本、松本の戸長・町長として功績のあった菅谷司馬、松本藩の陰術家芥川家の墓石もある。

また、廟園丹波塚の東側には前山寺歴住の墓が並んでいる。





①丹波塚



③七代光年墓

②六代光行墓



⑤光領室墓

④光領墓



⑦松平氏塋域碑



⑧饅頭塚